

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

昭和57(1982)年6月、奈良市田原地区で祭文語りが奇跡的に復活したその日、続いて同市日笠町の今井堂天満神社で御蔭踊りも特別公開された。

江戸時代に、60年ほどの周期で起こった庶民の爆発的な伊勢神宮への参拝を「御蔭参り」という。慶安3(1650)年、宝永2(1705)年、明和8(1771)年、文政13(1830)年と4回の大きな流行があった。このうち最も大規模だった文政の御蔭参りに付随して流行した踊りが「御蔭踊り」だった。その年の7月下旬に河内国で踊りが始まると、すぐに大和へも波及し、大和国も在々不残おどりの申候」(『荒時村年代記』)とあるように、大和各地でも流行した。踊りの様子は、盆地中央部の三宅町や川西町に大型

絵馬として残されている。

こうした御蔭踊りの流れをくむ踊りが、田原地区で昭和初期まで伝えられていた。長さ60センチほどの竹の柄に大きな白い幣を括り付けた御幣を持つ人や締太鼓、鈴振り、音頭取り、囃子などが中央にいて、その周囲を踊り子が手踊りしたり、「シナイ」と呼ぶ小さな御幣を手にしてこれを振りながら踊ったりする。昭和57年に私が見た時は、年配の婦人たちが踊っていたが、歌声は軽やかで美しいものだった。

♪ヨイシヨコラ エシヤナイカ エシヤナイカ (繰り返し) ヨーイナー おかげなりやこそ ヨイセーコリヤセー世間の人は ヨーイセーコ

田原地区の御蔭踊り―奈良市日笠町の今井堂天満神社で2016年3月12日、筆者撮影



ラセー 欲を離れてセン ギョする コラコラヤー トコセーノーヨイヤ ナ アレワイサッサ

御蔭参りと御蔭踊り

に、無料で食べ物やお茶、藁草履や菓などを与えて、お伊勢参りを助けることで、伊勢への道中となった大和の街道筋には、「施行所」がいくつも設けられ、御蔭参りの流行した時には、大和の人々は盛んに接待の活動をした。施行の様子は、古文書や龍王宮(大和高田市)の絵馬に生き生きと描かれていた。

明治42(1909)年生まれの中尾静子さん(奈良市日笠町)は、柳生から田原の尋常高等小学校に赴任した田中重徳校長の指導で、17、18歳の頃に、処女会活動の一環として地元の林ユキヨさんや塩田ハルノさんから、竹西美智子さんや山中操さんらと一緒に踊りを習ったという。

昭和3(1928)年4月から6月にかけて、女子青年団として敬老会で踊ったり、昭和の御大典に関連して橿原神宮で踊りを公開したりしたが、その後は踊ることはなかった。昭和57年の公開の際には中尾さんから踊りを習ったのだった。長い空白があったものの、この踊りは幕末から明治にかけての踊りが伝承されてきたものと思われ、かつては棟上げや婚礼の場などの祝いの場でも踊られたようである。

昭和58(1983)年に田原地区伝統芸能保存会が結成されたからは、保存会を中心に伝承が行われている。現在は毎年3月、今井堂天満神社や同市南田原町の天満神社で実施されるオンダ祭で奉納されることになっている。

(奈良民俗文化研究所代表)